舞鶴市議会最年少議員

鴨田（かもだ）あきつ通信

後援会だより　Vol.14

発行／鴨田あきつ後援会
舞鶴市字境谷158
TEL0773-75-0800
mail k.akitsu3@gmail.com

舞鶴初の維新公認議員となりました

この度、令和４年２月４日付けで日本維新の会所属の議員となりました。舞鶴では初の維新公認議員です。

経過としましては、令和２年の夏に党からお声をかけていただきました。そのご縁で令和３年春から京都維新塾で維新の政治を学んできました。これまでから維新の根本である「身を切る改革」と「しがらみのない政治」に通じた政治理念を持って、無所属議員として活動してまいりましたが、政党政治が社会のシステムとなっている我が国において、国政政党に所属する必要性も感じておりました。

口先だけではなく、このまちを本当に変えるためには、国や地方としっかり連携して抜本的に改革しなければならない。むしろ地方から国や国会議員を動かしていかなければならない。そのためには維新の政治が必要であると考えたわけであります。維新は好きだが鴨田は嫌い。またその逆もあるでしょう。しかしながら「すべては舞鶴のために」一点の曇りもなく、その思いからの決断であります。

本来、言論の府である地方議会では、市長と議会が建設的な議論を交わし、住民福祉の向上を目指して政策論争を行う場であります。そして全ての判断基準は「市民にとって良いか悪いか」です。しかしながら、現状は多くの議員が市長のいいなりになっており、二元代表制が機能しておりません。このまま利権と忖度にまみれた馴れ合い政治が続けば、このまちがどうなってしまうのか。大きな危機感を持っています。

市民の皆様の「舞鶴の政治はおかしい」という声を「舞鶴の政治は正しい」と実感できる政治に変えていく。守るものは守り、改革するものは待ったなしに改革していく。これこそが政治家の責任であり、この度の決断であったとご理解いただきたいと存じます。

今後については、まず今年11月執行予定の市議選において公認候補を擁立、議席数を増やしていきたいと考えております。そして、舞鶴のより良い未来を考えられる市長、府議を誕生させていく。その決意です。どうか今後とも変わらぬご支持ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年4月吉日　鴨田　秋津

令和４年３月定例会　持続可能な除雪体制と中学校の部活改革！

今季は久しぶりに良く雪が降りました。**積雪深は12月として観測史上第１位で、全体を通しても観測史上第４位の71cm（第１位は平成24年の87cm）でした。**皆さん、うんざりしながら雪掻きに明け暮れた年だったのではないでしょうか。**除雪や排雪のことでPTAや自治会の方々まで幅広く要望や相談を受けましたし、苦情もお受けしました。**そういったことで、大雪時の各種対応について多くの課題が見えましたので、次の冬に向けて整理しておくために質問しました。

２つ目は中学校の部活動会改革について。文部科学省は「令和５年度以降、休日の部活動を段階的に地域に移行していく」との方向性を示しており、教職員の働き方改革から端を発しています。**要は休日の部活動を地域の人材に任せて、教員が関わらなくてもいいように整備にしていくということです。**京都府では、休日の部活動の段階的な地域移行について、実践研究を事業化し、まずは先行的に実践することで課題などを検証するために、舞鶴市と京丹波町がモデル地域に選ばれ、令和３年度から取り組んでおりますが、次年度に向けて改善を提案しました。

１　豪雪地帯における持続可能な対応について

(1) 除雪に係る予算の考え方について
(2) 市道の除雪について
(3) 通学路、生活道路など克雪に係る自助・共助について
(4) 雪害時の危機管理について

高齢者の増加、共働き世代の増加などの要因で、生活道路や通学路の除雪が困難になってきています。

２　中学校における部活動改革について

(1) 令和３年度モデル事業の対象となった各競技の成果について
(2) 教員の働き方改革と地域指導者の確保について
(3) 生徒にとっての地域部活の成果について
(4) 教育委員会の枠組を越えた行政の連携について
(5) スポーツ産業の創出と持続可能な部活動との連携について

質問の動画は YouTube（ユーチューブ）で いつでも閲覧できます

受け皿となる地域スポーツクラブの社会的地位を高める必要があります。

代表質問　救急医療など、総合計画のまちづくり計画について

平成30年に策定された「第７次舞鶴市総合計画」の前期実行計画期間である４年間も残すところ１年となりました。救急医療体制、移住定住、雇用の確保、観光政策など、市長の考えを問いました。市民目線でしっかりと追及。**特に医療については、昨年９月定例会の代表質問と同様、会派として現状を厳しく指摘。**同僚議員が初の代表質問に立ちましたのでご覧ください。

質問の動画は YouTube（ユーチューブ）で いつでも閲覧できます　前半　後半

ロシアによるウクライナへの侵略を非難する決議 可決

今般のロシアによるウクライナへの侵略行為は国際秩序を大きく乱す蛮行で、言語道断であり、あらゆる言葉を使っても非難しきれない暴挙であります。

我が国も対岸の火事ではありません。欧州にとどまらず、東アジアにいつ飛び火するかもわかりません。現に日本とロシアは領土問題を有する隣国であります。日ソ中立条約を一方的に破り、対日参戦したソ連は北方領土を不法占拠し、今日に至っております。

相手に「悪のレッテルを張れば何をやっても許される。」そういった一方的な解釈で、プーチン大統領は、令和の時代に他国への侵攻に踏み切ったわけであります。

これまでと安全保障の環境は大きく変わったという認識のもと、新しい国際秩序の再構築が必要であると考えます。

また、**本市はウクライナを含め、ソ連領内の各地へ連行された日本人抑留者を13年間にわたり約66万人を受け入れ、戦争が引き起こした史実・悲惨さを後世に伝え続ける責務があります。**そのような歴史の上で成り立つ舞鶴で、ロシアの蛮行をもっとも強い言葉で非難し、断じて許さない。

以上が我が会派の討論です。（令和４年３月９日可決）

令和４年度当初予算などを審査。条件を付した賛成討論

一昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響で、歳入の落ち込みを懸念しておりましたが、市税は対前年度比１%増となり、自主財源の確保に努められことは、一定評価するところです。

歳出では「第７次舞鶴市総合計画」前期実行計画の最終年度となる令和４年度において、概ね総合計画の各目標を達成するための予算編成になっていると認めます。

また、我々の会派がこれまでから一般質問等で支援を提案してきた、**「学習支援やこども食堂などの子どもの居場所づくりにつながる事業に取り組む団体等のサポートや、ヤングケアラーへの支援」**が初めて市長から示されました。このような子育て支援に資する取り組みが拡充されることは評価します。

しかしながら医療については、**総合診察医をはじめとする医師不足など、救急医療の充実については、「府や医大に要請している」という口だけのパフォーマンスではなく、有言実行するように指摘。**また企業誘致についても、大きな成果をあげていない現状の政策を踏まえ、事業の在り方についても指摘しました。

また移住定住施策についても「田舎暮らしの本」において、雑誌編集者の判断で舞鶴が高評価を得たことを自慢する前に、**移住者や市民が実際どう思っているのか。その満足度をあげることが真の評価であることを指摘。**

いずれにしましても、令和４年度予算がどうまちづくりに反映されていくか。厳しく監視してまいります。

鴨田秋津プロフィール

1981年11月11日生まれ（40歳）

【学歴】拓殖大学経済学部 卒　【趣味】柔道（５段）、魚釣り

【家族】妻・子ども３人（１男２女）

柔道教室で子ども達の指導をはじめ、各種団体で青少年育成活動等を行っています。

終わりに

所管する産業建設委員会では、引揚記念館、姉妹友好都市など、ロシアと密接に関わる各事業について審議しました。

市長の国家観が問われています。

◉引揚記念館について

舞鶴はウクライナを含め、ソ連領内の各地へ連行された日本人抑留者を13年間にわたり約66万人を受け入れ、戦争が引き起こした史実や悲惨さを後世に伝え続ける責務があります。そういった中で舞鶴引揚記念館は**「グローバルな視点で国際平和を発信する拠点」**と位置付けられているわけで、ロシア問題に関連して、より平和の尊さと戦争の悲惨さを世界に発信していかなければならないと私は考えています。

◉ナホトカ市との姉妹友好都市について

舞鶴は昭和36年に**日本で初めて日・ソ間で姉妹友好都市を提携**しております。東京都知事はモスクワとの交流停止を宣言され、大阪市長もサンクトペテルブルク市の知事宛てに書簡を送り、一刻も早いロシア軍の撤退を求めています。外交は国の専売特許ではあるものの、舞鶴として毅然とした態度を取るべきとの立場です。姉妹友好関係を一旦停止すべきと考えます。

◉貿易について

サンクトペテルブルク、ノボロシスクなどロシアの物流を担う主な港湾は遮断されて、事実上ロシアへの唯一の海路となっているのが極東のウラジオストク港。舞鶴港は日韓露を結ぶフェリーが運航していますが、ロシアの港はウラジオストク港です。今後の情勢次第では舞鶴港の役割が停滞ではなく、逆に大きな担いとなる可能性が考えられます。

そのようなことを含め、様々な視点から厳しく質疑しました。

編集部よりひとこと

編集部のＡです。鴨田あきつの政治信条は柔道の理念である**精力善用、自他共栄**です。

精力善用とは、自己の力を使って相手をねじ伏せたり、威圧したりせず、世の中の役に立つことのために能力を使いなさい。

自他共栄とは、相手を敬い、感謝をすることで信頼し合い、助け合う心を育み、自分だけでなく他人と共に栄えある世の中にしなさい、という意味です。

ロシアのプーチン大統領は国際的にも柔道愛好家として知られています。もう一度白帯からやり直していただく必要があるでしょう。

地域の要望等、些細な事でも構いません。是非お気軽にご相談下さい！
TEL:0773-75-0800　mail:k.akitsu3@gmail.com

ホームページやSNSでは、日々の活動をより詳細に更新しています。ぜひご覧ください。

ウェブサイト　facebook　twitter　Instagram

KAMODAAKITSU